
大乱逃走中《ダイラントウソウチュウ》

死神魔姫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

大乱逃走中《ダイラントウソウチュウ》

【Nコード】

N6927X

【作者名】

死神魔姫

【あらすじ】

なんと今回作者が書く逃走中はスマブラ×逃走中ではなく、大乱闘×逃走中！！

作者+マスハン+クレハン+αがミッションを出していく！その+

αとは！？

マリオ「うおー！ハンターが＊＊して来る！！」

ルイージ「で、でも僕たちも＊＊できるよ！」

マリオ「そういえばそうだったな・・・」

さあ**に入る言葉とは？それは見てからの楽しみ！！！！

始まりです・・・(前書き)

死神魔姫こと作者です！小説書くのは初めてなのでおかしい所もいっぱいあると思うので、できるだけがんばります！
では、スタートです！

始まりです・・・

作者「よしっ！逃走中は始めるぜ！！」

マリオ「めんどい・・・」

作者「いや、ちょっ、まてよ！君の第一声めんどいて・・・」

マリオ「だってさー、これ作者が初めて書く小説だろ。絶対ためし書きだろ。」

作者「ち、ちがうよ！」

マリオ「絶対ためし書きだって。だって作者の友達に催促されて書いたんだろー？」

スマブラメンバーたち「そーだそーだ！」

作者「や、やめてくれー！悲しくなっちゃうじゃないか！」

ルイージ「でも兄さん。この小説のタイトル気にならない？」

マリオ「ああ、あの大乱って入っていることか？」

ルイージ「そうそう、あの部分も気になるし、作者もかわいそうだからやってあげない？」

マリオ「急にか！まあ金が入るなら・・・」

作者「もちろん！あげますとも！——（マスハンのポケットマネーですけどね）」

マリオ「じゃあ仕方がない。やってやるか！」

作者「ではでは、登場人物設定とルールを次にかくぜ！」

始まりです・・・(後書き)

ふう・・・やっと1話書き終わった・・・

実はこれ書くのに1時間もかかったんですね・・・

あああつ、もっと書く速度を速くしないと・・・

逃走者紹介1 (前書き)

やっと2話目か・・・

本当に終わらせれっかなこれ・・・

まあいい!がんばるぜ!

逃走者紹介 1

逃走者たち 1

マリオ

いつもクッパにさらわれたピーチをルイージと一緒に助けている。
しかしマリオによれば、ルイージが居なくても助けられるとか。
今回は、逃走を成功させて賞金でグアムに行くとか。

ルイージ

皆からネガティブキャラっぽいと言われている。
足はそこそこ速いのだが、運が作者が引くぐらい無い。
実は作者はマリオよりルイージの方が好き。

ピーチ

キノコ王国のお姫様。
いつもいつもクッパにさらわれては、マリオとルイージに助けられている。
数少ない女子の逃走者。

クッパ

毎回毎回ピーチをさらっては、マリオとルイージにボコられている。
この前なんかはさう前にピーチにボコられたらしい。
足の速さはネスとリュカと同じくらい。

ドンキーコング

バナナが大好きな森のヒーロー。
お供にディディーコングを連れている。
体の大きさに割に足は速い。

ディディーコング

赤い帽子とベストがトレードマークのチンパンジー。

力自慢のドンキーに対しスピードと身軽さが売り。

足はピカチュウより少し遅いぐらい。

ヨッシー

マリオとルイージのペット的な存在。

カービィとは大食い仲間。

足はあまり早くはないが卵に入ればそうとう速い。

ワリオ

いつもワルイージと一緒に手を組んではマリオたちの邪魔をする。

実は自分の会社を持っている。

足は結構遅い。

リンク

ゼルダとは片思い中の剣士。

いろいろな武器を持っていてとくにマスターソードがお気に入り。

足は以外に遅め。

ゼルダ／シーク

魔法を使い二人の姿を扱うことができる。

今回は両方の姿を使うらしい。

足はシークの時はトップを争う速さ。

ガノンドロフ

見た目は顔の怖いおじさん。

しかし本当はリンクの宿敵。

足は見た目の通り鈍足。

トゥーンリンク

一言でいうと、一回り小さくなったリンク。いつもガノンに小僧といわれている。

足はリンクよりも確実に早い。

ゼロスーツサムス

今回はパワードスーツが邪魔だったらしいので脱いできたらしい。職業は賞金稼ぎ。

足はシークと同じくらい。

ピット

すごく生意気な天使。

今回はマスハンの能力で長い間飛べるようにしてもらった。足は普通だか、空中での速さはピカイチ。

アイスクライマー

ポポとナナ二人で逃走する一風変わった逃走者。ポポかナナどちらかが捕まれば逃走失敗となる。足の速さは微妙。

ロボット

すべて片言でしゃべるロボット。

Mr. ゲーム&ウォッチとは片言仲間。

足の速さは超平凡。

カービィ

ププランドを救った英雄。

しかし本人はそんな自覚はない。

こっちもマスハンの力でたくさん飛べる。

逃走者紹介1（後書き）

よしっ！これで逃走者紹介前半終わり！
次は逃走者紹介2！

逃走者紹介2（前書き）

今週の月曜日、女友達と一緒にユニバに行くぜい！
というか更新の割合が一週間に一回になっている・・・
せめて一週間に2話は書かないとやばいな。
ともかく3話目スタートオ！

逃走者紹介2

メタナイト

一頭身なのにかっこいいプンプランドの戦士。
関係ないが作者はメタさんの使い手。
足はシークよりちよつと遅い。

デデデ

巨大なハンマーを持つ、プンプランドの大王。
容姿は腹巻をまいた青いペンギン。
足は、はっきりに言って鈍い。

ピクミン&オリマー

ピクミンが居ないとほとんどただの人。
今回は5匹まで連れ歩きOK。
足は平均的。

フォックス

やとわれ遊撃隊、スターフォックスのリーダー。
ウルフとは仲が悪い。
足はとっても速い。

ファルコ

スターフォックスの一員。
あだ名は焼き鳥。

足は速そうに見えて実はあまり速くない。

ウルフ

いつもいつもフォックスたちと喧嘩をしている。

特にファルコとはとても仲が悪い。
こちらもイメージほど素早くない。

キャプテン・ファルコン

レーサーでもあり、一流の賞金稼ぎ。

仲間同士だからかサムスとは仲がいい。

足は2番目に速い。

ピカチュウ

全ポケモンシリーズに登場する人気ポケモン。

一応性別は♂らしい。

隠れるのも、逃げるのも得意。

ポケモントレーナー（リザードン）

今回はポケットレは参加せず、手持ちの代表としてリザードンが選ばれた。

言葉はマスハンがどうにかしてくれるらしい。

足は巨漢の割に速い。

ルカリオ

傷つくほどに強くなる逆境ファイター。

見た目は青い狗。

足の速さは速くもなく遅くもない。

プリン

歌っては誰かを眠らせる困った子。

今回はうたうは使用禁止。

足はダントツビリ。

マルス

顔のかわいい腹黒王子。
ピットとは仲が悪い。
足は多分早い。

アイク

グレイル傭兵団の団員。
お肉が好きなどかわいい所もある。
賞金の使い道は「お肉！」らしい。

ネス

とっても黒い（中身が）12歳の少年。
特におっさんグループに黒い発言をしまくる。
この前もネスによってガノンが落ち込んでいたらしい。

リュカ

先輩を習って（？）黒くなった子。
しかしポケトレには絶対に黒い発言をしない。
先日もリュカによってスネークが心に大きなけがを負ったらしい。

Mr. ゲーム&ウォッチ

ロボットとは片言仲間。

任天堂の一番の古株。

足の速さは謎。

スネーク

作者の友達の中でのスネークのあだ名は「すね毛」（スネークファンの人すんません）
この前仕掛けておいた地雷にリュカがはまりボコられた。
足は結構遅い。

ソニック

音速で走るハリネズミ。

言葉の中にときどき英語が混じる。

足はダントツ一位。

逃走者紹介2（後書き）

やっと書き終わった・・・
次はルール説明だぜ！

ルール説明っ!! (前書き)

何とも不吉な字・・・ 4ってなんか不吉な感じがする気が・・・
まあ俺の気のせいかな! 今回もポジティブに!!
(ていうか作者、!マーク好きだな)

ルール説明っ!!

マスハン「よし全員集まったな。」

マリオ「なーなー早くルール説明しろよコノヤロー。」

マスハン「神にそんな口をきくな!ま、まあいい。よしつ、クレハン出番だ!」

クレハン「なんで俺に押し付ける!お前がやれ!」

マスハン「しかたがないな・・・じゃ簡単にルール説明をするぞ。まあ簡単に言えば攻撃できる感じになった逃走中だと考えてくれればいい。」

ネス「おいおっさん。そんな説明でわかんと思う?」

マスハン「スイマセン・・・」

クレハン「仕方ねーなー。俺が説明してやる。まず今回のハンターは特別製だ!」

ルイージ「どこの部分が?」

クレハン「一つ目は軟な攻撃じゃ場外をさせられないようにしてる。」

「ヨッシー「いや、軟な攻撃とか以前に攻撃できないじゃないですか。」

クレハン「いや、そこがこの逃走中の特徴だ。なんとハンターに攻撃してもいい特別ルールを作った！」

全員「おおー！」

クレハン「しかしそんなじゃみんな逃走成功しちまうからな。もう一つハンターには最大の特徴がある！！！」

デデデ「それはどんな特徴ゾイ？」

クレハン「それはな・・・攻撃すると攻撃した奴の長所と攻撃した技をコピーされちまうんだ。」

ナナ「それどーゆー意味？」

クレハン「たとえばソニックが攻撃したとする。そうするとハンターの足がソニック並になるんだ。」

クッパ「そんな・・・じゃ、じゃあワガハイが攻撃したら？」

クレハン「力が強くなってももちろん攻撃した技もコピーする。」

クッパ「そ、そんな・・・」

ピーチ「でも攻撃したら少しは時間は稼げるんでしょ？」

クレハン「ああ。まあハンターにとってもだがな。」

ゼルダ「えっ！じゃあハンターも逃げるのを妨害してくるんですか

!?!
」

クレハン「もちろんだ。」

リンク「ということはむやみに攻撃するのも少し考えようがありませんね・・・」

クレハン「ま、そういうことだな。あとはコピーした技と能力は特別なことがない限りコピーしたままになる。」

プリン「技が使えることが有利なのか不利なのかわからないでしゅ・・・」

ピット「じゃあ僕たちも飛べるんですかー？」

クレハン「もちろん。だが背中にジェットをつけたハンターも用意しておいたので油断は禁物だ。」

メタナイト「こちら也使いどころが難しいな・・・」

カービィ「ほんとだー。走って追っかけてくるハンターに気を取られて空に逃げた途端捕まっちゃうかもしれないポヨ・・・」

クレハン「説明はこの位にしておいて、次はオープニングゲームだ。」

ルイージ「絶対逃げ切る！（オープニングゲームで）」

ルール説明っ!! (後書き)

次やっと思走が始まる・・・

ここまで来るのに相当時間かったな・・・

後宣伝! ゆうらが書いてる小説も見てやっけてくれい!

オープニングゲームウウウ!!! <1t;1>

クレハン「よし、オープニングゲーム始めるぞー。」

ウォッチ「トコロデナンデマスハンデハナク、クレハンガシキッテイルノデスカ？」

クレハン「んーなんかこの前チ○ルチョコを3箱ぐらい買って、ロードオブザリ○グをツ○ヤで全巻借りてたから多分チ○ル食いながら見てんじゃねー？さっきどっかいったし。」

マリオ「あのくそ神、何仕事サボってるんだよ!!!」

クレハン「あーもー、とにかく始めるぞ!!!」

ピット「質問なんですけどー、何分逃走するんですかー？あと一秒何円ですかー？」

クレハン「今から教えるから黙れ。今回の逃走時間は180分。一秒300円だ。」

ロボット「トイウコトハ合計324万円トイウコトデスネ。」

クレハン「ま、そういうことだな。あとはステージだが5つの国に分かれていて北にある国は、天馬ノ国、東にある国が、大蛇ノ国、西にある国は、一角獣ノ国、南にある国は、飛龍ノ国、そして中央にある国、まあ一番大きい国だがそこが巨龍ノ国だ。」

メタナイト「どうやって移動をするのだ？」

クレハン「巨龍ノ国からすべての国へは橋がつながっている。あとそのほかの国は、隣同士の国としかつながっていない。あ、それと空飛べる奴はつながってない国同士を行き来するとその時点で失格となるから注意しろよ。」

カービィ「わかったポヨ！」

クレハン「そうだ、忘れるところだったがこれを全員に渡しておくぞ。」

ルイージ「これは・・・地図と自主コイン1枚か・・・」

クレハン「あと迷うことはないだろうが、国にはその国の名前に入っている怪物の銅像が置いてあるからそれを印にしてくれ。」

全員「はい」

クレハン「じゃあほんとにオープニングゲーム始めるぞ。まずくじを引け。」

さあ一番はいたい・・・？

ルイージ「僕だね。」

マリオ「やばい！みんな逃げる体制を作れ！！」

ルイージ「ひどいよ兄さん！！絶対僕が引くとは限らないでしょ！！」

マリオ「絶対引く！」

ルイージ「もういいよ！絶対引かないぞ！」

クレハン「ちょ、ちょっと待て。まだ説明をしていない！というかまだ用意してない！！」

マリオ「えー。はやくしろよー。」

クレハン「あーわかったよ！ここ鎖があるから引け！はずれ引いたらハンターが三人出てくる！そんだけだ！」

マリオ「いつもとおんなじだな。」

さあルイージの挑戦です！

ルイージ「よしっ。29番引くっ！」

ルイージの運命は…？

じゃらら・・・

セーフ！

ルイーダ「やったー！じゃあみんな頑張っただねー。」

マリオ「うおー、なんで、なんでルイーダが引かないんだー！」

ピーチ「これでこのケーキとあんぱんは私のものね。」

どうやらルイーダが引くか引かないかで賭け事してた模様・・・

次はいったい誰が引く？

次回へ続く・・・

オープニングゲームウウウ!!!! <t;1> (後書き)

なんと皆さんのおかげでもう少しでアクセス数が500となります!
これからもがんばっていくぜい!

オープニングゲームウウウ!!! &1t;2> (前書き)

どうも死神です。俺のプロフィール見てくれた人は知っているかと思うけど俺の名前は『しにがみ』ではなく『しがみ』ですよ! まあそんなことはともかく6話目にゴー!!!

オープニングゲームウウウ!!!!

&1t;2>

さあはずれを引く候補ダントツ1位だったルイージがあたりを引き
皆は焦り始め・・・

マルス「ま、まあこの王子がはずれをひくわけないよ・・・」

マルスが二番目のようだ・・・

アイク「ひくんじゃないか？」

マルス「ひどいよ！アイク僕は絶対にひかないよ！」

マリオ「むぷくく・・・あっはっはっはー！！！」

マルス「なんで笑うんだよ！！！」

マリオ「おまえきずいてないみたいだけど前のルイージみたいにな
ってんぞ！！あはははは！」

マルス「う、うるさい！絶対引かない！よし1番を引く！」

じゃ・・・

セーフ！・・・と思いきや・・・

マルス「うわ!! なんか出てきた・・・なにに、（これをだれかになげるとそいつの足が遅くなるぞ! ついでに逃走者にも投げられるぞ!）・・・か、これどう見ても蜘蛛の巣だよね? まあいいやこれで・・・ふふふ・・・」

マルス蜘蛛の巣ゲット!!!

マルス「じゃあねー♪」

マルスは向こうの方へと消えていった・・・

すね毛「次はだれだ? って誰がすね毛だ!!」

作者「ごめんごめんタイプミスったんだよ。（嘘）」

ソニック「次は俺だぜ!!!」

逃走成功候補一位のソニック、何番を引くのか!?

ソニック「よしっ! 7番を引くぜ!」

ソニックの運命は・・・?

ぐわしゃああん!!!!!!

ハンターが放出された!!

ソニック「オーマイガット!!はずれかよ!でも俺がいたら迷惑になる!だから捕まってやるぜ!」

ピーーーー

ポンッ

クレハン「ソニック逃走失敗だぜー!」

ピロリロリン

ネス「うるさいなもう!なにになに・・・ソニック確保・・・ソニックさん捕まったんだ・・・珍しいな・・・」

ピーチ「ついに逃走開始しましたわね。」

ピカチュウ「隠れるとこさがしとこつと。」

プリン「ベンチの下ならばれないでしゅかね?」

カービィ「てんまのくににいくポヨ!」

スネーク「巨龍ノ国が一番広いようだがあえて飛龍ノ国に行くとするか・・・」

それぞれ隠れ場所を見つけたり移動したりしている模様・・・
一方監視塔では・・・

作者「ついに始まったなー逃走中。俺的にはおじさんグループの中の誰かが引くと思ってたんだけどなー、予想外れたぜ。」

クレハン「まあいいんじゃないのか？それより一つ目のミッション、どうするんだ？」

作者「それなら助っ人を呼んでるぜ？ま、俺の友達だよ。」

クレハン「どんだけミッション作るの面倒なんだよ！まあいいか。」

ついに次回逃走劇が始まる！

オープニングゲームウウウ!!!!
&1t;2> (後書き)

皆さん感想お願いします。
ではさらば!

第一ミッション・・・「紅茶とコーヒーどちらが大好きですか？」（前書き）

今回の題名全然意味わかりませんよね？これは今回のミッションに関係していることなんで全然気にしなくていいです。
あと出来れば感想ください。お願いします。

第一ミッション・・・「紅茶とコーヒーどちらが大好きですか？」

さあついに始まったゲーム、生き残れる逃走者はいったい？

マリオ「あー暇だな。逃走する場所広い割にはハンター3体って。絶対生き残れるじゃん。」

余裕のマリオ、しかしこの逃走場所の広さがあとあと問題に・・・

リンク「開始から10分たったけど全然ハンターこないなー。これなら生き残れるかも・・・」

しかしそんな余裕のリンクの前に・・・

リンク「うわっハンター!？」

気を抜いていたリンク、攻撃も加えられずに・・・

ピーーーーーー

ぽんっ

リンク確保!

リンク「気抜いてたからか・・・」

ピロリロリンッ

メタナイト「ミッションか？なにになに（リンク確保）・・・か。これだけ広いというのに開始十分で捕まるとはそうとう気を抜いていたのだな。」

カービィ「空ってどんなのだろ？今多分お空のハンターいないみたいだし行ってみるポヨ！」

伝えるの忘れてましたがハンター3体というのは陸2、空1ということです。

カービィ「・・・普通に空だ・・・ポヨ・・・」

その頃監視塔では・・・

クレハン「そろそろミッション出した方がいいんじゃないか？」

作者「ちよっと待て、今いいとこなんだ！」

クレハン「何ゲームしてんだよ！ほんとどうするんだよ・・・」

ぽんぽん

クレハン「だれだ？いま俺の肩たたいたやつ？」

（クレハンの肩ってどこなんだ？）

「???」「紅茶とコーヒーどちらが好きですか？」

クレハン「えっ？ど、どっちかというところとコーヒー・・・」

「???」「かしこまりました！」

作者「よしっ！クリアだ！で、クレハン要件って何？」

クレハン「聞いてなかったのかよ！ミッションのことだよ！」

作者「ああそれだったら助っ人を呼んだはずなんだが・・・見なかったか？」

クレハン「そういえばさっきなんか紅茶かコーヒーがどうたらこうたらって聞いてきたやつがいたけどそいつのことか？」

作者「たぶんそれだ・・・どこ行ったか知ってるか？」

「???」「ただ今持ってきました！」

作者「おう！モカどこ行ってたんだ？」

モカ「クレイジーハンドさんのコーヒーを注ぎに行っていました！どうぞクレイジーハンドさん！」

クレハン「？わいい！お、おうアリガトウ・・・」

作者「モカ、ミッション手伝ってほしいんだけどいいか？」

モカ「はい、いいですよ。かわりにそのあと逃走者の皆さんのもと

へ行って観察してきてもよいですか？」

作者「ああ、いいぜ。じゃあこれをみんなに送ってくれないか？」

モカ「かしこまりました！」

ピッピッピー、送信カンリョウシマシタ。

モカ「できました！」

作者「ありがとう、あとはこのミッションを逃走場所で見張っておいてくれ。じゃ、俺は寝る・・・」

モカ「判りました！」

クレハン「居眠りすんじゃないー！しかたねえなー。そこのモカとかいうやつここに乘ったら向こうに転送されっから。」

モカ「では行ってまいります！」

逃走場所へと戻る・・・

ピロロン！

クッパ「なにごとだ！また捕獲なのか？」

メール・・・（どうも死神くんの代わりに来たモカというものです！これからミッションの内容を言いますので聞いていてください！

残り時間140分になるとハンターたちが1分ごとに分裂を始めます。それを阻止するためには、ハンターに攻撃を2回当てないといけません。あと同じハンターを同じ逃走者が攻撃すると無効になりますのでご注意ください。攻撃を二回当てたハンターは分裂しなくなります。もちろん攻撃をすればハンターは能力をコピーしてきますし、捕獲しようともします。それと広いステージではハンターが見つけれないのである便利な道具を5個宝箱に入れていろいろな場所に置いたので見つけた時は使ってくださいね。その道具の電源は残り時間140分になると強制的に落ちますのでそこらへんは覚えておいてください。ではお知らせは終了です！皆さん頑張ってくださいね！）

クッパ「なにー！ハンターが分裂だと！で、では残り時間145分になったらハンターの数・・・56体だと！これは何とか阻止せねば！」

シーク「これはやばいね。ハンターが5分で53体増えるというのとだよ。行くとするか・・・」

ピカチュウ「うごいたら見つかりそうだしハンターが通りかかったら攻撃しようかな・・・」

ルイージ「やばいやばいやばい！どーしよー！これは行くしかないよね？」

いつもミッシェンに行かない人たちもいくようだ・・・

残り逃走者・・・35人

ミッシェン残り時間・・・20分

ハンターの分裂を止めることはできるのか？

第一ミッシヨン・・・「紅茶とコーヒーどちらが大好きですか？」（後書き）

モカというのは俺のリア友です。小説では女ですが、現実はどうか
もしれませんねー。俺は知ってますよ？ということでは次回で第一ミ
ッシヨンの結果出ます。多分・・・

第一ミッション・・・途中経過（前書き）

今回の逃走中は今年中に終わらせるつもりだ！だから更新速度上げ
たんだぜ？

でも今週の木曜日からテスト週間なんだよな！。まあ更新速度は落
とさないつもりですので！

第一ミッション・・・途中経過

アイク「ハンター・・・もぐ・・・見つからない・・・むしゃ・・・
なあ・・・」

お肉を食べながら歩くアイク。しかしそんなところに・・・？

アイク「うおっ！ハンター見つけ！しかもまだばれてない！あと残り時間15分ぐらいしかないし誰か呼ぶか・・・」

ピッピッピッピ・・・プルルルル・・・

一体アイクは誰に電話をかけたのか？

ピロリロリン！

ファルコン「ん？誰かから電話だな・・・もしもし。」

ファルコンのようだ・・・

アイク「もしもし？急にだがミッション参加するか？」

ファルコン「ミッションか？もちろんだ！」

アイク「じゃあ今すぐ一角獣ノ国の銅像前に来てくれないか？今俺の近くにハンターが居るんだ！」

ファルコン「本当か！ちょうどそこまで近いし今すぐ行く！」

アイク「早く来てくれよ。今少しずつ移動しているし・・・」

ファルコン「わかった！じゃあな！」

ぷつつ！ぷーぷーぷーぷー

アイク「早く来てくれよ、ファルコン・・・」

10秒後・・・

すたたたた・・・

ファルコン「おーいアイク！」

アイク「やばい！大きい声出すな！」

しかし今の声で・・・

アイク「やばい！こっちに来るぞ！」

ファルコン「すまん！」

アイク「どうする？」

ファルコン「攻撃するしかないだろう！いくぞ！」

アイク「じゃあ、ハンターがちかずいて来たらせーので行くぞ！」

ファルコン「わかった！いくぞ！せーの！」

アイク「天！空！」

ファルコン「ファルコーン！パンチ！！！」

どごっ！！！！

ハンター「ダメージ50%、コピー、天空、ファルコンパンチ、あと3秒で行動開始始めます！」

アイク「今のうちに逃げるぞ！」

ファルコン「OK！」

アイク「ハア、ハア、ハア、ここまでくれば大丈夫か・・・？」

アイクたちは今のハンターから逃げるために巨龍ノ国の近くまで移動。

ファルコン「俺的にハンターしゃべったのが一番びっくりだな・・・」

アイク「最初3秒も硬直するのかって思ったけど今冷静に考えてみたらあのハンター、俺とお前の技受けてやっと3秒止められるだけなんだな・・・これは相当やばいな・・・」

ファルコン「そうだな・・・」

ピロリロリン！

ルカリオ「なんでしょう？えーと・・・」

メール・・・（途中経過、現在、アイクとファルコンの活躍により1体のハンターの分裂を阻止！しかし攻撃したためそのハンターは、アイクの天空と、ファルコンのファルコンパンチをコピー。

現在残り時間10分 残りハンター数3体（阻止1体）以上！）

マリオ「おお！これで残り2体じゃん！俺も行った方がいいかな・・・」

次回で第一ミッション終了!! (前も言ったような・・・?)

ここからはおまけタイム

モカ「みんな大変そうですねー。さっきもハンターさんに会いま
したし・・・」

???「ねえねえその御嬢さん。ぼくと一緒に遊ばない?」

モカ「だ、誰ですか!」

ピット「僕だよ、ピットだよ! ねえ行こうよー。」

モカ「え、いや、ちょっと・・・だれかたすけてー!」

????「おらっ! 手榴弾!」

ぼむっ!!!

ピット「わっ! やばい! にげよー」

スネーク「大丈夫ですか? 御嬢さん?」

モカ「ハイ、大丈夫ですっ!」

はいここでカンがさえてる人は判ったかもしれませんが、モカはス
ネークのことをもちろん知りません。

まあいえば急に羽が生えた子にナンパをされ、そしてピチピチのな
にかを着た外国人のおじさんが助けに来たということです。

第一ミッション・・・途中経過（後書き）

今回はスネークのかわいそうなエピソード入れてみました！

第一ミッション・・・終了(前書き)

えーテスト週間なんですけど、んなもん無視で投稿です。

第一ミッション・・・終了

トゥーン「うあー！ハンター少なくともラッキーとか思ってたの間違いだったー！全然見つからないー！」

ハンターが見つからずに嘆くトゥーン、しかしそこに・・・

トゥーン「あれ？これって宝箱？開けてみよっと。」

中に入っていたのは・・・

トゥーン「んー何々？（千里〇の薬）これってモン〇ンに出てくるあれじゃん！！！！まあいいや。効果は？」

（千里〇の薬・・・これは電源とかないので第一ミッションで使わなくてもいいです。効果はこの薬を飲むと30秒間ハンター一体のいるエリアがなくなくなります。）

トゥーン「へー、これは残していてもいいんだ・・・でもハンター見つけないといけないし飲も！」

ごくっ！！

トゥーン「えーと・・・今ハンターが居るのは・・・一角獣ノ国か・・・ここ天馬ノ国だね・・・遠いから誰かに頼も。」

プルルルルル！

シーク「はいもしもし？あっ！トゥーン？」

トゥーン「はい！あのすいません・・・今どこにいますか？」

シーク「えっとね、今は一角獣ノ国にいますがどうかしたの？」

トゥーン「ちょうどよかった！実はハンターがいる場所が分かったんですけどここから遠いんです。シークさん、頼めますか？」

シーク「いいよ！どこにいるの？」

トゥーン「シークさんが居るエリアです。」

シーク「わかったよ。じゃあ！」

ぷつつ、ぷーぷーぷー

トゥーン「僕が言ったら間に合わないし・・・シークさん誰か誘っていくのかな？」

シークの心配をするトゥーン、そんなところにハンターが！

トゥーン「うわあ！ハンターだ！このエリアにも居たの！？」

なんと不運なトゥーン、さっきのアイクとファルコンの攻撃によって技をコピーしたハンターに出くわしてしまった！しかしそんなこ

とはトゥーンは知らない！

トゥーン「でもこれで阻止できる！爆弾なg・・・」

ハンター「テックウ！」

トゥーン「ひゃ！うわ！動けない・・・」

トゥーンハンターの攻撃をもろに受けてしまった！なすすべもなく・
・

ぽん！

トゥーンリンク確保！

トゥーン「そんない！？ハンターってあんなに積極的に攻撃してるの！？」

トゥーンを捕まえたハンターはパワー派の二人の攻撃を食らっている。ということであのハンターも攻撃的になっていたということです。

シーク「ハンター見つからない！ん？メールだ・・・トゥーンリン

ク確保・・・捕まったの!？」

ハンターが見つからないうえ逃走者一人確保、時間はどんどん過ぎて行き・・・

ミッション終了まで残り10秒!

9

8

7

6

5

4

3

2

1

0!!!

ミッション終了!

阻止できていないハンターは2体!ということで・・・

ハンター×2「分裂開始します。」

ハンターの数が一気に3体から5体に!

シーク「やばい!ハンターどこ・・・っっていた!」

シークが奇跡的にハンターを発見。

その後、フォックス、マリオ、ピカチュウそれぞれがハンターに攻撃をし・・・

ピロロンピロロン！

ルイージ「うわ！メールだ・・・なんだろう？」

メール（シーク、フォックス、マリオ、ピカチュウがハンターに攻撃を加えハンターの分裂をとめた！しかしすこし遅れたためハンターが分裂をし2体増え、さらに攻撃したためハンターがまたまたコピーをしてしまった。

残り逃走者・・・35人 ハンター1・・・天空、ファルコン
パンチ ハンター2・・・仕込針、ブラスター ハンター3・・・
でんげき、ポンプ
以上）

マルス「うわー、5体のうち3体が技を持ってるなんて・・・逃げるのが大変そう・・・まあ僕が捕まるわけないんだけどね！」

やっとミッション1が終了。しかし次のミッションはもっと恐ろしい・・・はず！

第二ミッション・・・「ネ〜ス〜〜ん!!!!!!」(前書き)

久しぶりの投稿・・・

あ、あと今回もだけどあんまり題名気にしないでください。

第二ミッション・・・「ネ〜スく〜ん!!!!!!」

監視塔にて・・・

クレハン「次のミッションどうすんだ？」

作者「んー？あれ？まだ来てないのか、あいつ・・・」

???「ネ〜スく〜ん!!!!!!」

どすっ！ごしゅっ！

クレハン「だれだ！俺にぶつかってきたやつ!!」

作者「あ、ゆうらじゃねーか」

ゆうら「あっ！まっきー！ネス君知らない？」

作者「居場所は知ってるけどあわてんな。先にミッションに・・・」

ゆうら「どこどこ？おしえてー！」

作者「いや、だからまって・・・」

ゆうら「おしえてよー!!」

こんな会話が10分続き・・・

作者「だ・か・ら！先にミッション行ってくれって！そうしたら教えてやるから！」

ゆうら「ホント？」

作者「本当だよ！！じゃあ今からミッションの内容教えるから。」

ゆうら「約束だよ！」

なんとかゆうらに内容を伝え・・・

ゆうら「それをつたえるのー？」

作者「ああ、そうだ。頼んだぞ。」

ゆうら「いってきまーす。」

逃走場所にて・・・

ネス「さっきはあぶなかったー。ハンターと鉢合わせするなんて・・・」

息の上がつているネス、ハンターに追われていたようだ・・・

どどどどどどどどどど・・・

ネス「な、なに？もう逃げられないよ・・・」

ゆうら「ネス君！！！」

ネス「うわっ！だれ？」

むぎゆう！

ゆうら「ネス君、かわいいかわいいかわいい！」

ネス「なんなの？」

ゆうら「ネス君いいこと教えてあげるね、もう少しでミッションが始まるよ！じゃあね！」

たったったった・・・

ネス「いったいなんだったんだろう？」

ピロロンピロロン

ネス「もしかしてミッション！？」

メール・・・（いまから第二ミッションはじめるよっ！第二ミッションの内容は裏切り者募集だよ★

裏切り者になりたい人は電話してね。制限時間は1分だよっ★

ネス「裏切り者募集か。僕はあくまでもかわいい子だから裏切り者なんかになったらだめだよね。」

さらっと黒いことをいうネス。その頃・・・

????「もしもし、はい。裏切り者になります。」

ピロロン♪

ピーチ「きゃっ！何事？」

メール（ついに裏切り者になった人がいるよ★あと裏切り者は通報して通報された人が捕まると＋10万円だよっ★じゃーね）

マルス「うわ。裏切り者に気を付けないとなー」

しかしそんな王子に忍び寄る影・・・

裏切り者「もしもし、マルスが大蛇ノ国の橋にいます。」

ハンターがマルスの捕獲に向かう！

マルス「裏切り者誰かなって！ハンター！」

ハンター「ファイアボール発射します。」

マルス「させないよ！」

マルスはファイアボールを剣でかき消した！しかし後ろからもハンターが迫る！

マルス「後ろからもハンター！？もう無理だ・・・」

ピーー

ぽんっ

マルス確保！

マルス「裏切り者の仕業か…」

ついに裏切り者が現れた！5体のハンターと裏切り者が居るかで逃走者たちはどんな逃走劇を見せるのか！？

作者「そろそろあれの用意するかな？」

裏切り者の正体は？

マリオ「やばいなー、ミッションの心配はないんだけどなー、つか裏切り者誰だよー!!」

ルイージ「もしかして兄さんだったりして・・・」

マリオ「なんか言ったか？」

ルイージ「い、いや。なにも・・・」

どうやらマリオとルイージは一緒に行動しているようだ。

その一方・・・

作者「えーと、これとこれをここに置いて・・・」

モカ「これも書きますよね？」

作者「ああ、頼む。」

何かをたくらむ作者・・・

リュカ「もし裏切り者がおっさんグループの一人だったら終わった後にネスさんとボコロっと。」

フォックス「ははははは・・・（怖いこと言うな・・・）」

ファルコン「お、俺じゃないからな・・・」

こちらは3人のようだ・・・

リュカ「フォックスさん、ファルコンさん、ハンターが来たら身代わりになってくださいね。」

がさっ！

リュカ「ってハンター！？」

ファルコン「身代わりになるのだけは嫌だからな！」

と喋っているうちにハンターとの距離は縮まる！！！！

リュカ「フォックスさん！身代わりに・・・」

フォックス「嫌だよ！！でももう逃げられないな・・・リュカ、道

連れにしてやる!! ブラスター!!」

ばしゅっ!!

リュカ「ひゃ!!」

ピーーーー

ぽんっぽんっ!

フォックス、リュカ確保!

フォックス「リュカさえいなければ・・・」

そのころ・・・

ピロンピロン!

ファルコン「も、もしかして・・・」

メール（フォックス、リュカ確保）

ファルコン「やっぱり・・・俺ってホント疫病神なのか?」

ついに逃走者同士の争いも勃発！
いったいどうなるのか！？

裏切り者ってあいつかよ！ byマリオ

空のステージにて・・・

ピット「なんか気持ち悪いな、ずっと飛べるのって・・・」

大きな独り言を言うピット

ピット「そうだ！今何円だろ？えーと・・・今80分たったから・・・144万円か。自首しようかなー」

カービィ「あっ！ピットだー！」

ピット「うん？ああ、カービィか。どうしたの？」

カービィ「あのね・・・」

ピット「うん。」

カービィ「ハンター来てるよ★」

ピット「そうなんだー。ってハンター！？」

ゴオオオオオオ

ピット「せっかく自首しようと思ったのにー！」

文句を言いつつカービィを抜かしたピット。当然狙われるのは・・・

カービィ「僕うう！？」

ピーーーー

ポン！

カービィ確保！

カービィ「食べ物が・・・」

巨龍ノ国銅像前にて・・・

ネス「そろそろ自首しよっかなー？」

こちらにも同じ考えを持つ者がいるようだ・・・しかし・・・

裏切り者「もしもし？ネスが巨龍ノ国銅像前にいます。」

裏切り者の通報！ハンターが確保に向かう！！

たったったった！

しかしネスは気づかない！

ネス「えっ？ハンター！」

ようやく気付いたネス、しかし間に合わず・・・

ピーーーー

ぽすっ！

ネス確保！

ネス「はぁ？裏切り者の通報？後で裏切り者ボコってやる！……！」

そんな黒いネスを通報した逃走者、その裏切り者とは！？

スネーク「人聞きの悪い！これは裏切り者じゃなくてスパイというやつだ！！」

屁理屈をこねるスネーク、現在2人通報しそのうち二人とも捕まっているので+20万！

裏切り者になった理由は？

スネーク「だからスパイだって！！ってあれってアイク？よし、通報するか。」

プルルルル

スネーク「もしもし？巨龍ノ国ベンチ付近にアイクが居ます！」

またもや通報！ハンターがどんどん巨龍ノ国に集まっていく！

アイク「にく食いたい・・・ん？あれはハンター？」

奇跡的にアイクはハンターに早く気が付いた！今回は防具を身に着けていないのでいつもより速い！

アイク「十分逃げられる・・・」

アイクはハンターを振り切った！！

スネーク「くそっ！逃げられたか・・・」

裏切り者の正体が判明！次回その裏切り者に悲劇が！！！！

蛇の悲劇!!

ガノン「久しぶりのセリフ・・・だがあまりしゃべることもないんだがな・・・」

ワリオ「そうか？」

そんなおっさんたちの会話を影から聞くのは・・・

スネーク「また逃走者発見♪通報通報つと・・・もしもし、ガノンとワリオが巨龍ノ国自首ボックス前にいます！」

この通報がスネークの運命を分けた！

ハンター全員が巨龍ノ国に集まる！

ガノン「おい！ワリオ！ハンターが来ているぞ！」

ワリオ「なに！よし。ガノン、俺につかまれ！」

ガノン「こ、こうか？」

ワリオ「いくぞ！3，2，1！ワリオっぺ！！」

ぶぼっつ！！！！

どしゅ！

ガノンとワリオは空の彼方へと消えた・・・

スネーク「なにー!？」

驚いた拍子に大声を出してしまったスネーク。その声を聞きつけ、スネークが通報し集まったハンター全員が確保に向かう!

スネーク「しまった!ハンターがこっちに来る!よしっ、路地を利用して逃げよう!」

路地を駆使して逃げるスネーク、しかし・・・

スネーク「こっちにもハンター!?!しかも右からも左からも来てる!」

ハンターに囲まれたスネーク、自業自得だ・・・

ピーーーーー

ポンッ!

スネーク確保!

スネーク「やばい!あ、あのちみっこたちにボコられる・・・」

その頃ワリオたちは・・・?

ヒューーーーー ドスン!

ワリオ「いてえ！」

ガノン「クッションになってくれた恩は一生忘れないぞ。」

ピロリロリン！

ワリオ「いてて・・・誰か捕まったのか？」

メール（巨龍ノ国にてスネーク確保！ちなみにスネークが通報しすぎてハンターのほとんどが巨龍ノ国に集まっている！）

ガノン「ふっ、自業自得だな。」

ワリオ「つーかなんで俺がクッションなんだよ！」

ガノン「スマブラメンバー一番の嫌われ者だからだ。」

ワリオ「ひどいな！つーかここどこだ？」

ガノン「あっちに蛇の銅像があるから大蛇ノ国じゃないか？」

ワリオ「そうか・・・」

ついに裏切り者が捕まった！しかし安心したのは束の間、
またもミ
ッションが始まる！！！！

番外編・・・牢獄中！（前書き）

今回は番外編となります。

番外編・・・牢獄中!

牢獄にて・・・

ごすっ!ごすっ!

フォックス「ん?何の音だ?」

マルス「ぷぷっ!多分あれの音だと思う。」

軽くふきながら笑うマルスの指差した先には・・・

リュカ「先輩が持つてるそれって金属バットですか?」

ネス「うん、そうだよ?」

リュカ「わあ！すごいですね！僕なんて木製バットですよ。これじゃあんまり効果なさそうなんですよねー」

まるで野球少年たちのしている会話に聞こえる・・・しかし本当は・
・

スネーク「ちょ、やめっ！やめてくれ！って痛い！」

ちょうどネスとリュカに挟まれているスネーク・・・バットでござすされているようだ・・・

ネス「なあ蛇、お前僕たち通報したよね？」

スネーク「いやちがう！ちがうって！ほんとやめt・・・」

どござすっ！！！！

リュカ「先輩すごい！！！」

ネス「まだまだだよっ★」

ござす、ござす、ござす・・・

フォックス「あああ、あれってさもし俺が裏切り者だったらああなっていたのか！？」

マルス「ま、そうゆうことだね。こんなひ弱な王子を通報した罰だ

よ！ははっ！僕も参戦しょ！」

ソニック「すっげえなー、まあ俺もゲストキャラという肩書でがぶってたからいいんだけど・・・」

リンク「ていうか、スネークさん気絶してません？」

トウーン「いや・・・金属バットと木製バットに強打されて生きてる方が奇跡だよ・・・」

スネークが殴られること10分・・・

ネス「あーすっきりした！」

リュカ「僕もです！！」

マルス「僕もだよ。」

リュカ「先輩！このぼろ雑巾どうします？」

ネス「端っこの方に寄せといたら？」

マルス「それがいいよ！」

ずるずる・・・

作者「おーい、なんかさっき誰かの叫び声と殴る音が聞こえたんだが？」

ネス「え？何にもないよ！それよりその荷物なーに？」

急にかわいくなったネス、とんでもない変貌ぶりだ・・・

作者「ああ、これは差し入れだ。おかしの詰め合わせだがいるか？」

カービィ「いるいる〜！」

作者「えーと・・・あれ？スネークは？」

リユカ「さあ？僕わからないです・・・」

作者「そうか、スネーク居ないのか、どうすつかなこのお菓子・・・」

カービィ「みんなで分ければいいポヨ！」

作者「そうだな、じゃあここに置いておくからな！じゃあな！」

マルス「ばいばい〜！」

ネス「ラッキー！ストレス発散できたしお菓子ももらえた！」

次回は本編へ戻る！

番外編・・・牢獄中！（後書き）

なんか毎回スネークかわいそうなんですよね。
本当スネーク好きな人ごめんなさい。

第三ミッション・・・「あっとうも・・・水谷です・・・」(前書き)

今回の題名に本名っぽいが入ってますけど全然本名じゃないので安心してください。

第三ミッション・・・「あつどうも・・・水谷です・・・」

監視塔・・・

クレハン「おお！帰ってきたのか！つか何してたんだよ！」

作者「んー？牢獄の奴らに差し入れ持ってたんだよ。そういえばスネーク居なかったな・・・」

クレハン「はあ？なんでいねえんだよ！あいつ捕まっただろ？」

作者「そのはずなんだけどなー・・・はっ！」

クレハン「どうした？」

作者「い、いや、な、なんでもねえ・・・（多分あいつらにボコられたんだな・・・）」

クレハン「そーいや次のミッションどーすんだ？」

作者「ああ、それなら助っ人を・・・こっちだ・・・」

??「あつどうも・・・水谷です・・・」

クレハン「こいつか？どんな内容のミッションにするつもりだ？」

作者「まあ、敗者復活が順当だな。」

クレハン「なんでだ？」

作者「ああ、そりゃあ、ネスとかリュカがかわいそうだからだよ。」

作者は男ですが無類のかわいい物好きです。

水谷「あのー何すればいいんですか？」

作者「この内容をメールで皆に伝えておいてくれ。」

水谷「あ、はい。」

かちかちかちかち・・・

水谷「できましたけど・・・？」

作者「じゃあ、テキトーに逃走場所ぶらぶらしててくれ。」

水谷「あっじゃあもう俺何もなくていいんですかね？」

作者「そーなんじゃねーか？」

水谷「では・・・」

ひゅん！

クレハン「なんであいつ敬語なんだ？」

作者「・・・キャラだ・・・」

場所変わって逃走場所・・・

ピロロン！

ポポ「わあ！メールだー！」

メールだというのに少し嬉しそうなポポ、やはりかわいい・・・

メール（あっどうも水谷鯨というものです・・・えーと今回のミッションは敗者復活です。ルールは簡単で残り時間90分になると一斉にハンターと時計が止まります。そのあと宝箱が10個設置されます。宝箱の中身は1つだけどれかに復活券というものが入っています。それを牢獄にいる誰かに渡すと渡された人が復活します。残りの宝箱にはハンターが一体ずつ入っているので注意してください。開けた途端襲ってくることはありませんがゲームが再開すると動き出しますのでご注意ください。制限時間は15分なのでゲームが中断してから15分経つと誰も復活していなくてもゲーム再開となりますのでご注意ください。説明は以上です。）

ナナ「へー、ネスおにーちゃん復活させたいなー。」

ポポ「僕もー。」

確保者念願の復活ミッションが間もなく始まる！いったい誰が復活するのか！？

第三ミッション・・・始動(前書き)

えーと、はい、ついに2000アクセス行きました！

第三ミッション・・・始動

ミッション開始まで

5

4

3

2

1

0

スタート!!!

ついにミッションが始まった!!

メタナイト「ついにミッションが始まったか・・・これに参加するかは悩みどころだな・・・」

デデデ「ワシは参加せんゾイ! わざわざ危険を冒してまで助ける必要なんかないゾイ!」

メタナイト「むっ? あれは宝箱・・・ここで見つけたのも何かの縁・・・ミッションに参加するでしょう・・・」

パカッ・・・・・・・・・・

ハンター一体追加です！

メタナイト「なにっ！ハンターだと！？まあ仕方がないか・・・10分の1の確率でしか手に入らないのだから・・・」

ピロリンピロリン！

マリオ「なんだ！もう誰か復活したのか？なにになに？（ハンター一体追加）・・・だめじゃん！！！」

ルイージ「そりゃそうでしょ。10分の1の確率なんだから・・・」

マリオ「そーゆうお前こそミッション参加しろよ！」

ルイージ「いやだよ！どうせ開けたらハンターでみんなに責められるんだよ！！！」

ネガティブゾーンに入ってしまったルイージ、しかしそんなところに・・・

マリオ「おーい、ここに宝箱あるぞー！」

ルイージ「だからあけなあいって！！！」

マリオ「開けろ!!!」

ルイージ「わかったよ!!! もうやけくそだ! どうにでもなれ!!!」

ぱかっ

復活券入手!!

ルイージ「・・・え?」

マリオ「ラッキーじゃん、誰を復活させるんだ?」

ルイージ「・・・・・・・・」

マリオ「おい聞いてるか・・・」

ルイージ「ひゃっほーい!!! やったー!!!」

とても喜んでいるルイージ、とてつもなくうれしかったようだ・・・

マリオ「おーい・・・」

ルイージ「あっ! ごめんごめん、僕的にはスネークがいいんだけど・・・」

マリオ「はあ? あいつ裏切り者だぞ!」

ルイージ「兄さん、よく考えてみて、あのネスとリュカがいる牢獄に裏切り者のスネークが言ったらどうなると思う?」

マリオ「・・・あっ! そ、そうゆうことか・・・でももう間に合わないんじゃないか?」

ルイージ「これ以上被害を大きくさせないためだよ。とにかく行ってくる! じゃあねー」

たったったった・・・

ルイージ「ふう、速くしないとほかのみんなが宝箱開けちゃうよ・・・」

そう、まだルイージが復活券を持っていることを知っているのはマリオしかない！ほかの逃走者たちがもう復活券の入っていない宝箱を開ける可能性があるのだ！

しかしルイージの予想は的中・・・

ポポ「こっちにも宝箱あったよ！」

ナナ「じゃあ、開けよう！」

現在アイスクライマーチームは宝箱を2つあけているが、どちらもハンターだったのだ・・・

ぱかつ・・・

ハンター追加です！

ポポ「うわーん！またハンターだよう・・・」

ナナ「ネスおにーちゃん復活させられない・・・」

少し涙目になっている二人・・・

そんなところに・・・

ルイージ「どうしたの!? こけたの?」

ポポ「あのね、ネスおにーちゃん復活させたいのに見つからないの・
・・」

ナナ「どーしよう・・・」

とてもかわいい目で見てくる二人、やさしいルイージが抵抗できる
はずもなく・・・

ルイージ「今僕が復活券持ってるんだ。あげるから泣かないで。」

ポポ「いいの?」

ルイージ「うんいいよ・・・（まあネスが牢獄から出たらまだまし
だよね・・・）」

ナナ「ありがとー!」

ポポ「行ってきまーす!」

とてててて・・・

ルイージ「スネーク・・・ガンバ!」

牢獄にて・・・

リンク「誰か僕を復活させてくれませんかね・・・一番期待してるのはゼルダさんなんですけど・・・」

ソニック「おっ！誰か来たぜ！」

ネス「あっ！ポポとナナだ！おーい！」

ポポ「ネスおにーちゃん！復活券持ってきたよー！」

ネス「え？僕を復活させてくれるの？」

ナナ「うん！ルイーザさんが譲ってくれたのー！」

ネス「ありがとう！じゃあ遠慮なく復活させてもらおうよー！！！」

ピッピッピッピーーー

ピロロン！

マリオ「あ、復活させたのか？」

メール（ポポとナナの活躍によりネスが復活！あと五分で再開します。）

マリオ「ってなんでルイージじゃないんだ？しかも復活したのネスだし・・・」

ネス「ふっかーっ！！！がんばろ！」

次回ゲーム再開！

ゲーム再開！（前書き）

早くモンハン3Gしたいなー。まだ手に入っていない作者です・・・

ゲーム再開！

ゲーム再開まで・・・

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

0・・・

再開！！！！

なんと再開したことでハンターが4体追加！合計9体に・・・

その影響か・・・

マリオ「ちょ！なんで再開したとたんハンターに追っかけられるんだよー！しかもなんかブラスター連射してくるんだけど！！！！」

ばしゅっ！ばしゅっ！

どしゅっ!!!

マリオ「いてっ！」

ハンターが発射したブラスターはマリオに直撃！
そのままド派手にこけ・・・

ぴーーーーー

ぽんっ！

マリオ確保！

マリオ「なんか攻撃できるルールってどっちかっていうと俺たち不利じゃない？」

ごもつともだ・・・ハンターは逃走者を見つけたら積極的に攻撃してくるのだから・・・

そのころ・・・

ファルコン「これってお前やばくない・・・？」

余裕でしゃべるファルコンの後ろにいるのはクッパと・・・ハンターだ・・・！

クツパ「しゃべってないでワガハイを助ける！」

ファルコン「無理だよ！俺遠距離の技もってねーんだよ！！」

といいつつ逃げていくファルコン・・・クツパが逃げきれるわけもなく・・・

ピーーーーーー

ぽんっ！

クツパ確保！！

クツパ「そんない！？ワガハイの城の改装計画が・・・」

ファルコン「今回捕まったのはクツパだから俺のせいじゃないな、うん、そうだと信じておこう・・・」

ピロリロリン！

ガノン「ん？メールか・・・」

メール（マリオ&クッパ確保！）

ワリオ「捕獲パレードだな・・・」

よくわからないたえをするワリオ・・・まだ一緒に行動している
ようだ・・・

監視塔にて・・・

クレハン「おい！作者！」

作者「ぐーぐーぐー・・・」

クレハン「くそっ！こいつ起きないぞ！ほんと次のミッションどう
すんだよ・・・あっ！いいこと思いついてしまった・・・こうゆう
時は即座に実行開始だな！」

なんだか急にご機嫌になったクレハン、いったい何をたくらんでい
るのか・・・

ぴろん！

ピット「また確保く？」

メール（裏ミッションだぜー、今回はハンター削除グッズがもらえる特別なミッションだ！説明はめんどいから参加する奴は一人ずつ監視塔に来てくれ！）

ピット「このパターンってミッションが足りなくなったときに使うよねー、しかも今回はクレハンだしな・・・掃除しろとかいうのはやだなー」

しかしピットの予感は的中・・・

トレーナー「監視塔の近くに隠れててよかったー」

リザードン「がう！」

どうやらリザードンだけで行動するのではなくトレーナーが上に乗って行動するようだ、ちなみに参加権利はリザードンしかないののでトレーナーは確保されることはないようだ・・・人間との会話が困るので一緒に行動しているらしい・・・

トレーナー「エレベーターに乗って！っ」と

ウィーーン

チーン！

トレーナー「ここでミッションするのか・・・あれ？あれってクレハン？」

クレハン「おお！やっぱり来てくれたか！」

トレーナー「で、どんな内容ですか？」

クレハン「それはだな・・・」

こいつを起こしてほしいんだ・・・」

トレーナー「・・・は？」

クレハン「いや、だからこいつを起こすんだよ！」

軽くキレイながらクレハンが指差した先にいるのは・・・

作者「むにゃむにゃ・・・」

トレーナー「ええええええええ！起こすだけでいいんですか？」

クレハン「ああそうだ。だがミッションにただけあって結構難しいぞ？」

トレーナー「何してもいいんですよ？」

クレハン「ああ。」

トレーナー「じゃあさっそく・・・リザードン！火炎放射！」

リザードン「がうる！」

ごおーー！

リザードンが作者に向かって火を吐く！しかしうまくいくはずもなく・・・

作者「むにゃ・・・刀でぶった切ってやる・・・」

ずばあっ！

なんと寝ているはずの作者が寝返りとともに刀でリザードンを切った！

リザードン「ぐわ!?!」

油断していたためもろに不意打ちをくらった！

トレーナー「うあーーーーー」

きらん！

クレハン「ほら、言わんこっちゃない・・・」

作者「むにゃ・・・」

なんと前代未聞のミッションが始まってしまった！作者を起こすことはできるのか！？

なんてしょうもないミッションなんだ!?

b y ネス (前書き)

今回のミッションの提案者はモカさんです。

なんてしょうもないミッションなんだ!?

b y ネス

????? 「ああああああああああ!」

????? 「ぐおおおおおおおお!」

どすっ!

空から落ちてきたのは・・・

トレーナー「いたたた・・・急に刀を出すなんて・・・いったいどこにあんなもの持ってたんだ?」

リザードン「がう?」

トレーナー「それよりあのミッション難しいよ! いろんな意味で・・・」

リザードン相手に会話をするトレーナー、通じているのだろうか?

その一方・・・

ファルコン「ハンターを消せるアイテムか・・・これ取れば名誉挽回だな!」

自分といった逃走者がどんどんつかまっていたので少し落ち込んで

いたファルコン、ここで名誉挽回となるか!?

ファルコン「あれ?今思ったら制限時間ないみたいだな・・・裏ミッションだからか?」

ぶつぶつ言いながらもなんとか監視塔についたファルコン、しかし・
・

ファルコン「あれ?ウルフにロボット?なかなか出番がなかった二人がどうしてここに?」

ウルフ「余計な御世話だ!」

ロボット「並ンデルンデスヨ。」

ファルコン「なんで入らないんだ?」

ウルフ「おまえメール見てないのか?一人ずつ入れって言ってたじゃねーか!」

ファルコン「そうだったか?あれ?ということはまだだれか中に居るってことか?」

ロボット「ハイ、私たちがココに着く直前メタナイトサンが入ッテイキマシタ。」

ファルコン「うわっ！めんどくせえ・・・待たなきゃいけないじゃないか・・・」

と、会話していると・・・

パリーン！！！！

メタナイト「オーマイガー！！！！！！」

3人「・・・・・・・・・・」

ファルコン「今飛んでったのってメタナイトだよな・・・」

ウルフ「あ、ああ・・・」

ロボット「失敗シタラ飛バサレルンデスカネ・・・」

ファルコン「と、ともかく次はロボットだろ？行かないのか？」

ロボット「ソウデスネ・・・行クトシマショウカ・・・」

ウィーーーーー

ファルコン「大丈夫か？ロボット・・・」

ウルフ「そんなことよりハンターの心配を・・・」

二人が会話をしているところに・・・ハンター!!

ウルフ「よりもよってここでハンター!？」

ファルコン「ともかく逃げるぞ!!」

今のところハンターに近いのはファルコン、普通はファルコンが狙われるはずなのだが・・・

ウルフ「なんで俺!？」

なぜかウルフが狙われる羽目に・・・これもファルコンの力なのか・・・?

ぴーーーーー

ポン!

ウルフ確保!

ウルフ「ファルコンめ!」

ファルコン「・・・はあ・・・まただ・・・」

そして・・・

ロボット「ウワーーーーー!!」

ファルコン「ロボットもか・・・」

少し落ち込みながらもエレベーターに乗るファルコン・・・

ウーーーーー

クレハン「こいつ起きなさすぎだろ・・・」

ファルコン「おい・・・来てやったぞ・・・」

クレハン「おお、ってどうした!? なんかすっげえネガティブオーラ漂ってんだけど・・・」

ファルコン「いや・・・気にすんな・・・」

クレハン「そ、そうか・・・それよりもこのミッションについてだ
が作者を起こすっていうミッションなんだが・・・」

ファルコン「そうか・・・わかった・・・やってみるよ・・・」

以外にも難しい裏ミッション、ファルコンはクリアできるのか!?

このミッション結構重要だったのか!?

b y ルカリオ

ついに裏ミッション完結となるか!?

ファルコン「いくぞ・・・ファルコーンパーンと・・・」

ムクッ!

作者「ん・・・よく寝たー、あれ?なんでファルコンがこんなところでファルコンパンチ撃とうとしてるんだ?」

クレハン「あれ?起きちゃった!?!」

ファルコン「ていうことは俺ミッションクリアか!イエーイ!!!」

さっきまで不運の連発だったファルコンついに運が付き始めた!!

逆の意味で・・・

クレハン「あのー、すつげえ喜んでるとこ悪いんだけど・・・このミッシェンクリアしたのロボットになってるぞ？」

ファルコン「・・・は？」

クレハン「いや、だから、今作者起きたのってお前が攻撃する前だろ？だからクリアしたのはその前に攻撃したロボットになるんだ・・・やっぱ落ち込むか？」

ファルコン「あ・・・いや・・・別に落ち込んでねーよ？あはは・・・じゃあ俺戻るわ・・・じゃあな・・・」

後ろから見ただけでも落ち込んでいるのがわかるほどでもないネガティブオーラを発生させているファルコン、ドンマイ！

作者「なあ、クレハン、どうしたんだ？あいつ。」

クレハン「多分お前のせいだ・・・」

作者「ええ！俺のせいだよ！！なんかしたかな・・・？」

逃走場所にて・・・

ロボット「イテテ・・・飛バスナンテヒドイデスネ・・・」

ピロン！

ロボット「メールデスネ！」

メール（今回のミッションはロボットがクリアしたぜ！ちなみにクリアしたロボットにはスマッシュボールをプレゼントだ！）

ロボット「ア、アレ？ナゼ私ガクリアシテイルノデショウカ？マア
イイデスカ。」

シュン！

ロボット「ヒヤア！コレハスマッシュボール！？ア、メモガ張り付
ケテアリマスネ。読ンデミマショウカ・・・」

メモ（このスマッシュボールに攻撃すると最後の切り札が使えるよ
うになります。最後の切り札をハンターに当てると当てたハンター
が消滅します。）

ロボット「ホウ！コレハ便利デスネ！スグニ使エルヨウニシテオキ
マショウカ・・・」

パリン！

ロボット「コレデハンターガ来テモ安心デス！」

場所は変わって・・・

ルカリオ「ロボットさんいいですね。スマッシュボールを手に入れたなんて・・・多分ハンター消滅アイテムの類でしょうし・・・」

しかしそのルカリオの前方からハンター！ところがハンターは前方から来ていたためルカリオはすぐに見つけた！

ルカリオ「ハンター！？しかしこんなこともあるのか！っかり波動をためておきましたよ！」

バシュウ！

ボム！！

ルカリオが最大までためた波動弾がハンターに直撃！

ハンター「ダメージ30パーセント、あと2秒で行動開始します！」

ルカリオ「今のうちに逃げましょう！」

たったったった・・・

ルカリオ「はあ、疲れました・・・」

ロボットがスマッシュボールを獲得！このアイテムがどう逃走に
関わってくるのか！？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6927x/>

大乱逃走中《ダイラントウソウチュウ》

2011年12月18日17時45分発行